

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	目標は「地域に根付き安心した施設と評価されること」である。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	田んぼが隣接しているので、農作業時には駐車場を提供している。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議などで話し合いたいと考えているが、まだ十分に組み立てていない。	○	地域の民生委員も運営推進会議に参加していただき、ともに何が出来るかを考えていきたい。また、認知症についての相談も受けたいと思っている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年評価結果を、運営者、管理者、職員が話し合い改善に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、活動報告や意見交換の場として機能している。参加者も増え、具体的な質問などもいただけるようになった。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険の更新、身体障害者の受給の手続き、毎月の入居者数の報告など、できる限り訪問し情報交換を行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護に関する研修に参加し、成年後見制度について学んだ。社会福祉協議会職員とも連携を取り、必要な人には活用できるよう支援している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	DVDによる勉強会を持ち、虐待について学び虐待のない介護を行っている。	○	これからも勉強会を多く持ち、虐待のない介護に努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に利用者や家族に説明を行い、理解していただいている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置しており、利用者の希望に沿うよう努力している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の予定を知らせると共に、通信欄に利用者の状態や連絡事項などを記入したおたよりを毎月発行している。また、来所時には健康状態や近況報告をしている。	○	家族の訪問が多くあり、現在の状態なども報告し、安心や信頼を得られていると思う。今後も継続していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催し、意見や不満をお聞きしている。また、ご意見箱も設置しており活用している。入居時には苦情相談窓口があることを説明している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員の意見や提案を聞き、運営者、管理者、リーダーが集まり話し合う機会を設けている。	○	リーダーが職員の意見や提案を聞き、運営者、管理者等と話し合い反映している。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	柔軟な対応ができるよう勤務調整に努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者への影響を考慮し、異動は最小限に抑えている。また、異動があっても馴染みのユニットを訪問し、交流するということを職員が自発的に行っている。	○	退職者が少なく、異動もユニット間であり馴染みの関係が保たれている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や町主催の研修会の参加を推奨している。また、施設内での勉強会も定期的に行っている。	○	併設の医療機関で介護職に対する勉強会をしている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設訪問や合同勉強会に参加した。	○	今後も機会があれば積極的に参加していきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	お花見、ボーリング大会、日帰り旅行、忘年会などの親睦会を企画開催しており、ストレス軽減の場を設けている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者が県や町主催の研修会、勉強会への出席を推奨している。	○	毎年数人が資格取得のため自主的に挑戦している。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ケアマネジャーから事前に話を聴いたり、ホーム見学時には本人からも困っていること、不安に思っていることを聴くように努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	電話があった時やホーム見学時に話を聴く機会をつくり、信頼関係を深める努力をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同一施設内のケアプランセンターと連携を取り、必要とされる支援を見極める努力をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に本人や家族にホームの見学をしてもらっている。同じ地区の利用者との面談も同意があれば行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔の苦労したことなどの話を聞いたり、子供の頃に遊んだ遊びを一緒にしたりして楽しんでいる。また、料理の味付けを一緒にしたりしている	○	本人の特技や趣味を最大限に活かせるよう配慮している。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	毎月のおたよりや面会時に本人の状態を報告して共に考え、話し合っ現場に反映している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の面会時にはゆっくり家族で過ごしていただける環境を、提供できるように努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	1階でデイケアを行っており、知人や近所の人々のデイケア利用時には、顔をあわせて馴染み関係を保っている。知人や友人の訪問をいつでも歓迎している。	○	本人の希望を聞き馴染みの場所に出かけるなどの個別ケアに、より一層力を入れていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	席替えを随時して、どの利用者とも親しくなれるよう支援している。外出時にはその都度メンバー交代をし、多くの利用者に関わる機会をもっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された人を訪問したり、家族の方と外で会うと気軽に挨拶を交わしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりと話す時間がとれる入浴時や夜勤時に、希望や意向を聞いている。その内容をカンファレンスを開き職員間で話し合い検討している。	○	家族の協力も得て個別ケアの取り組みを実行している
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴などを家族にきいたり、本人との会話をとおして把握するよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの一日の過ごし方や心身状態を把握し、記録に残し申し送りをしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意向を聞き、職員間で話し合い、よりよい介護計画を作成できるよう努めている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のカンファレンスで介護計画の見直しを行っている。変化があった場合は家族とも話し合い、新たな計画を作成している。	○	月1回はできるだけ全員の職員が集まり、対応についての意見交換を行っている。今後も続けていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録や申し送りで情報を共有し、介護計画の見直しに活かすよう努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	急変時の対応、医療の充実が確保されており、十分に活かされている。同一施設内のデイケアを利用している地域の方と、交流をするなどの支援をしている。	○	医療機関の併設であり、急変時の対応については連携ができており家族の安心を得ている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	毎週1回の傾聴ボランティアや演芸の訪問を受けている。	○	中学生の社会学習の受け入れや、看護学生、歯科衛生士の学生研修の場として提供している。今後も他分野との交流を深め協力を得たい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護度の変更や家族の意向により、他施設への入所を支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通して交流がある。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診支援は、本人や家族の意向を聞き行っている。専門の治療が必要な場合は、家族と協力し受診している	○	これからも必要に応じて、主治医との面談がスムーズに行えるように支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	併設している医療機関と連携を取りながら支援を行っている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が管理職であり、また、医療機関が併設しており、常時適切なアドバイスや援助を受けている。	○	併設の医療機関で看護職とともに勉強会に参加している。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関との情報交換や相談はできており、早期に退院できるように努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時の話し合いに加え、重度化した場合には医師、本人、家族、職員間で話し合いを重ね、最善の方針を考え全員で共有している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療機関が併設しており、常時適切なアドバイスや援助を受けている。医師、医療関係者、家族、職員間で十分に話し合いを持ち、本人にとってよりよい環境が保たれる努力をしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	十分に話し合い情報交換を行い、ダメージを防ぐよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの人格を尊重しており、言葉かけや対応にも十分配慮しており、記録などの個人情報の取り扱いにも留意している。	○ ホールの見やすい場所に個人情報保護方針を掲示し、職員の責務を明確にしている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の希望や思いは言葉かけを工夫したり、話しやすい環境をつくるよう努力し、自己決定ができるよう支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にして希望をとり入れ、その人らしく暮らしていけるよう支援している。	○ 一人ひとりのペースを大切にしており、食事もゆっくり時間をかけて摂ってもらえるよう支援している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎月一回出張理容を利用しており、一人ひとりの髪形などの希望を取り入れている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食器は一人ひとり違う好みの柄のものを使っている。食事好みのメニューを取り入れている。利用者と職員がともにおしぼりを巻いて準備をしたり、後片付けをしている。	○ できるだけ季節感のあるメニューづくりをしていきたい。利用者の誕生日には赤飯を炊きみんなで祝っている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ショッピングなどを利用して好みの物を購入したり、家族に嗜好品を持ってきていただいたりして、日常的に楽しめるように支援している。	○ ショッピングと外食は開所当初より継続しており、外食時のビールを楽しみにされている方には、今後も体調の許す限り提供していきたいと思っている。ノンアルコール飲料なども活用している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行い、おむつ使用を減らし、気持ちよく排せつできるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望に合わせて入浴は楽しめている。入浴剤を使用し、温泉気分も味わってもらっている。	○	利用者とはゆっくりコミュニケーションがとれ、思わぬ本音を聴くことができたりしている。一人ひとりの体力、身体状態にあわせ、ミスト浴、リフト浴も利用していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	テレビの音や空調に気を使い、安眠や休息ができるように努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	乾いた洗濯物は家事の好きな利用者に畳んでもらっている。また、楽器の得意な利用者にはキーボードを弾いてもらい、それに合わせてみんなで歌をうたっている。	○	誕生日会は一人ひとりの当日に行い、赤飯を炊いたり手作りのケーキを用意してみんなで祝っている。本人の願いを把握し、個別ケアとして役立てていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望に沿うように支援している。本人の力に合わせてショッピングに出かけた時の、支払いや散髪代などを支払ってもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	可能な限り、外気浴や散歩をして気分転換をはかっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ドライブなどに出かけた時に、自宅近くを通ったり、家族の方に生家のあった場所や距離のある大きなショッピングセンターにつれていってもらったりしている。	○	個別ケアとして、家族、ボランティアと協力し外出の機会を増やしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	親類や知人から小包などが届いた時などは、電話でのお礼や礼状を出すよう支援している。友人との手紙のやり取りも奨めており、毎年年賀状も出している。	○	年賀状、暑中見舞い、近況を知らせる手紙や写真を送っている。これからも継続していきたい
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	7時から20時までにはいつでも訪問できるように開放しており、家族や知人の来訪が多くある。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については正しく理解しており、その防止に全員で取り組んでいる。	○	人権の尊重には十分に配慮しており、DVDなども利用して身体拘束について学んでいる。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけないケアに取り組んでいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員交代時の申し送り時には一人ひとりの状態を細かく申し送り、昼夜を通してプライバシーに配慮し、十分な見守りを行い、安全にも配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に応じて、危険と思われる物品は預かり、保管、管理を行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット事例を検討し、職員間で情報を共有し事故に至らないよう対応している。また、食事形態にも配慮したり服薬の確認、移動時の見守り等、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。	○	これからもプライバシーに配慮しながらも十分に見守りを行い、安全な生活が送れるよう支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成し、緊急連絡先を明示している。	○	併設医療機関において定期的な勉強会を実施している。より一層応急手当や初期対応訓練も行っていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	業者により定期的に緊急機器の点検整備を行っている。消防署員の来訪もあり年2回の防災訓練を行っており、避難誘導においても速やかに対応できるようにしている。	○	運営推進会議においても具体的な計画を提案して話し合っていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	定期健診の結果や状態を家族に連絡し、リスクについても説明し、対策についても話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルサインチェックや入浴時の体の観察などにより、体調の変化や異変には気をつけている。気づいた時は看護師に報告し、速やかに対応している。	○	併設の医療機関との連携が密であり、家族にも安心化を持っていただいている。今後も異変の早期発見に努めていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用している薬については理解しており、薬の飲み忘れや誤薬がないようにしている。症状の変化についても確認に努めている。	○	ケース記録にカラーの薬状をファイルしており、すぐに服用している薬が分かるようにしている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維の多い食事や水分補給、運動による便秘予防を心がけている。食物や運動による対応が難しい利用者には薬による対応もしている。	○	食事内容については併設の医療機関との連携により、管理栄養士による適切なアドバイスがある。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じて声かけや見守りを行い、必要な人には介助にて口腔ケアの支援をしている。	○	週1回訪問歯科に来てもらっており、歯科医や歯科衛生士による適切なアドバイスが得られる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるカロリー計算のもと、一人ひとりの状態に応じた食事を提供している。食事形態もきざみ食やとろみ食などにして、嚥下しやすくしている。水分も十分に確保するように努めている。	○	一人ひとりの状態に応じて夜間の水分を準備するなど、十分に気を配っている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	流水での十分な手洗いを励行している。手指消毒液も使用している。アルコール系の消毒薬での手すりなどの消毒を行っている。発令があった時はマニュアルに沿って対応している。	○	感染症の対応がすぐに分かるように、県や保健所からの通達文書も綴った感染症ファイルを設置しており、いつでも確認できるようにしている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮な食材を使用し、食器や調理用具なども高温乾燥やアルコール類・塩素系消毒薬で消毒し衛生管理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花や植木を置いたり、親しみのもてる入りやすい雰囲気づくりを心がけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を生けたり季節を感じる飾り付けをして、明るく落ち着いた雰囲気づくりをしている。また、メダカの水槽を置き飼育している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で過ごすことができるように壁際にいすとワゴンを置いている。お茶を飲んだり話をしたりして利用している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたいすやテーブル、タンス、ピアノなどを置き、居室が安心した居心地のいい場となるようにしている。	○	家族と一緒に写っている写真や手作りの小物なども飾って、楽しめるようにしている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝空気の入替えを行っている。空調整備は定期的に業者が行っている。空調による温度、湿度の調節は一人ひとりの状態に合わせてこまめに行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体がバリアフリーになっており、手すりを多く設置しており、自立した生活が送れるよう工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	下駄箱には目印をつけたり、居室には一人ひとりに違った表札をかけ、わかりやすく工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダの洗濯物干し場は、無理をせず洗濯物を干したり取り込んだりできるように、物干しざおを低く設置している。駐車場では外気浴をしたり、夕涼み花火大会を催している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・医療機関併設のグループホームであり、急変時の対応は夜間でも速やかに行われている。家族の安心も得ている。
- ・ショッピングと外食は開所当初から行っており、入居者や家族に喜んでいただいている。外食はほぼ全員が参加されており、ご夫婦で参加されている方もいる。毎回みなさん楽しみにされている。